

科目	「問15. 授業の難易度」、及び「問16. この授業のための週当たりの学習時間」に対する学生による評価をみて、どのように考えられますか。また、改善案があればお書きください。
L	授業が難しすぎたというよりは、理解しようとする態度を醸成できなかったことを反省している。授業は簡単ではないと、シラバスに書いておくべきだった。
L	授業の難易度については「ちょうどいい」が半数を超えていることから、ほぼ問題ないものと思われる。学習時間についてもほぼ順当な時間が確保されているものと思われ、特に改善は必要ないものとする。
L	授業の難易度については、前回と比較して、より「ちょうどいい」に集中しているのが意外であった。学生自身が課題に真剣に取り組む姿勢が薄いと、授業をやさしく感じるという面が見て取れる。この点も、そのときの受講生に応じて臨機応変に指導を変えられるといいのだが、50人以上の授業では個々の学生への対応に限界を感じている。
L	授業の難易度としては半数近くの学生が「難しい」と回答しているが、その根拠は「興味・関心の無さ」に拠るものだと考えている。教養科目は単位を積み重ねるためだけ、取得さえできればよいという現実的な動機に基づく受講は、学生・教員双方にとって無益である。実際に「リテラシーはムダだと思う」という自由記述もあり、カリキュラムの枠組みを否定する学生がいることは今後の大きな課題である。高校までの受動的かつ到達目標の明確な教育に慣れてしまっている学生に、複数の視点から相対的に判断するという方法論を教授することの難しさを痛感した。
L	ほとんどの学生の学習時間が、1～2時間で、中には、3時間以上との回答もあり、とても嬉しかったです。ただ、一部に、「難しすぎる・学習時間なし」という回答があったので、個別に丁寧な指導する必要があると思いました。
L	授業の難易度の感想として「ちょうどいい」と「難しい」が拮抗しているのがこのクラスの特徴と考える。取り扱った題材はどれも日常生活の延長線上にあるものばかりであったが、それを「言語学」というフィルタを通すことにより、今までとは異なる性格を帯びることを実感してもらるように配慮したことをどう判断するかによって意見が分かれたと推測する。期末課題のテーマ選定も多岐にわたり、講義内容を完全外れてゼロから課題を設定する意欲的な学生が多かったのも特徴で、それらが週当たりの学習時間の長さには反映されたのではないと思う。学生の反応を見る限り、難易度、授業内容の量は適切であると判断した。
L	学生に前提となる知識が殆どないので、全体としての難易度は高いのではないかと。事前の準備として、西洋古典文献学、書誌学に関する知識を平易に解説したつもりであるが、関心のある学生は予習をしてきているのがわかる。質問をするのでわかる。
L	週当たりの学習時間が短いので難しく感じる人が多いようです。
L	学習時間が0時間の学生26%、1時間以内でも49%であることから、学習時間が全体的に不足している。次年度は学習時間が増加する様に、課題の出し方を工夫したい。
L	文系の学生には難しい内容であるので、理系の学生の半分のスピードでゆっくりと講義を進めた。イメージやエッセンスは伝わったと思う。
L	もう少し学習時間が増えるともっと深い知識が得られるでしょう。
L	物理を履修していない学生に対しても理解ができるように講義資料を準備したが、結局、受講学生の大部分が理系コースに所属していたため、少し平易すぎたかもしれない。また、宇宙に関する最新のニュースなどの収集方法などを紹介すれば、学生が自ら調べるきっかけとなったのではないと思う。

L	<p>問い15は、「ちょうどよい」という回答を50%まで向上させる必要があると思いました。問い16については、週あたり1～2時間が極めて少なかったため、適度な難易度のレポート課題の準備をする必要があります。</p>
L	<p>この二つの項目を比べると、難易度の「難しい」と「難しすぎる」の合計が16人(40%)であるのに対し、学習時間の「1時間以内」と「なし」の合計が18人(45%)であった。あくまでも数値の上での話ではあるが、勉強しない学生には難しかったということになり、結果としてふつうの授業だったということになる。勉強しない学生からも難易度が「ちょうどいい」などと評価されるような授業だけはしたくないと思う。</p>
L	<p>これまでの経験から、家庭学習はほとんどしないであろうと想像しており、そのために、できるだけ授業中に学習するようにした。レポート課題を5回出題したにもかかわらず、学習時間なしの回答が53%もあるのは、他人のレポートを丸写ししているのかもしれない。授業の難易度については適当と考えている。</p>
L	<p>授業の難易度を『難しい』『難しすぎる』と回答している学生が65%おり、週当たりの学習時間が『1時間以内』『なし』の学生が75%だったことから推測すると、難しくどこをどう勉強したらいいのかわからなかった学生もかなりいたのではないかと思われる。また、そのせいかあまりやる気を感じられない学生も若干見られた。今後は内容をより簡易で興味をひきやすいものに改善していく必要があると考えられる。</p>
L	<p>学生のアンケート結果によると、難易度は「ちょうどよい」と感じるものが最も多く(73%)、時間についても、週1～3時間かけて自宅で学習をする者が90%程度いることがわかる。学生からするとほどよい内容であったと考えられる。内容について、難しいと判断する者、あるいは、時間をかける者の多くは、かなり真剣に本授業に取り組んでいる者であったと、学生の受講態度から推察している。よって、今後も同程度の難易度にしたいと思う。</p>
L	<p>学生が講義のために積極的に学習したり、内容を容易に理解させられなかった点に関しては、講師側の教養科目の講義の経験不足である可能性が否めないと思っている。しかし、講義後に学生自身が作成したノートを見返したときに分かりやすいような、キーワードの説明の文章化および配布プリントのカラー印刷などの工夫を行っている。</p> <p>また学生の遅刻が多数みられたことから、学生自身の授業に臨む積極性の薄さを感じられ(おそらく希望でない学生がいる)、問15および16の評価に影響した可能性が考えられた。</p> <p>教養科目を受講する意義を学生がしっかり理解できるような機会を充実させる、もしくは学生自身の意欲を高める取り組みを行うことで改善されるのではないかと思われる。</p>
L	<p>難易度については、62%の学生が「ちょうど良い」と回答しているが、「難しい」とする者も17%程度ある。環境問題はあある部分、自然科学的内容と社会科学的内容とが、混在しており、専攻によってその違いが現れたのではないかと感じている。</p> <p>週あたりの学習時間については、48%の学生が「なし」と回答(1時間以内が33%)しており、何らかの課題を宿題として課すような手立てを講じなければならないと感じている。シラバスには事前学習の指示を示しているが、ほとんどの学生はそれを見えていないと思われるので、毎回とまではいわなくても数回に1回は小レポートとして課すなどの手立てが必要である。</p>